

図 1 - 3 指針実施前の隔離・身体拘束の実施状況  
(身体拘束の部位)

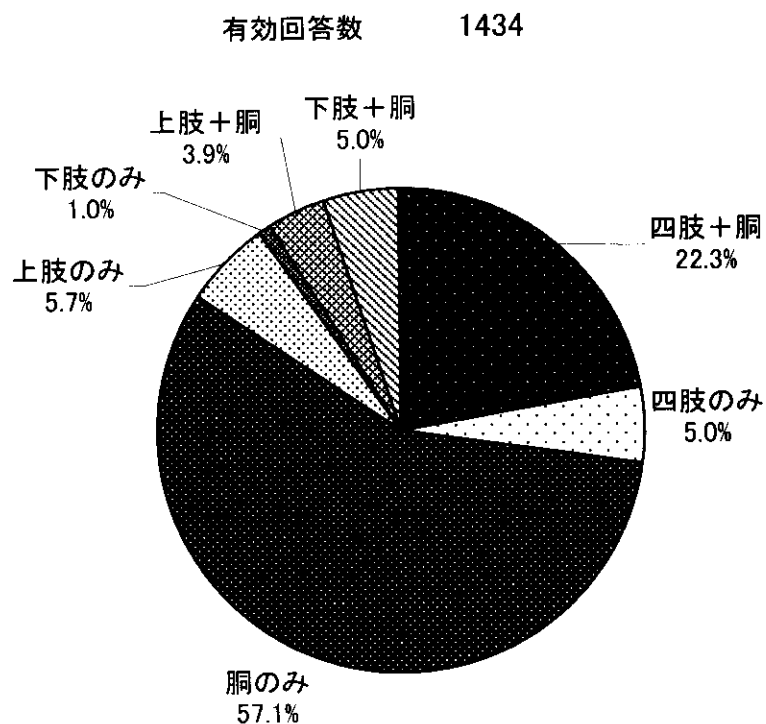


図 1 - 4 指針実施前の隔離・身体拘束の実施状況  
(マグネット式抑制帯の使用の有無)

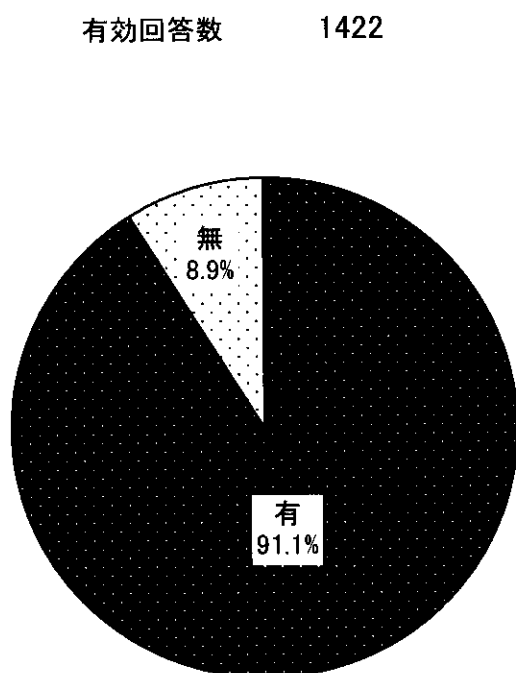


表3-1 指針実施後の隔離・身体拘束の実施状況

調査参加施設数	9 施設
病棟数	72 病棟
調査参加病床数	3,616 床
入院延べ人数	46,628 人
入院実人数	3,668 人

隔離実人数	181 人	4.9%	隔離実人数/入院実人数
隔離実施件数	307 件		
隔離延べ日数	1,711 日	3.7%	隔離延べ日数/入院延べ人数
隔離指示延べ時間	35,807 時間	3.2%	隔離指示延べ時間/(入院延べ人数×24)
開放観察患者実人数	128 人	70.7%	開放観察患者実人数/隔離実人数
開放観察延べ件数	2,544 件		
開放観察延べ日数	1,143 日	66.8%	開放観察延べ日数/隔離延べ日数
開放観察延べ時間	5,715 時間	16.0%	開放観察延べ時間/隔離指示延べ時間

拘束実人数	151 人	4.1%	拘束実人数/入院実人数
拘束実施件数	208 件		
拘束延日数	1,168 日	2.5%	拘束延べ日数/入院延べ人数
拘束指示延べ時間	21,161 時間	1.9%	拘束指示延べ時間/(入院延べ人数×24)
部分中断実人数	96 人	63.6%	部分中断実人数/拘束実人数
部分中断延べ件数	2,697 件		
部分中断延べ日数	748 日	64.0%	部分中断延べ日数/拘束延べ日数
部分中断延べ時間	7,007 時間	33.1%	部分中断延べ時間/拘束指示延べ時間
拘束一部解除延べ日数	60 日	5.1%	拘束一部解除の延べ日数/拘束延日数
拘束一部解除延べ時間	642 時間	3.0%	拘束一部解除の延べ時間/拘束指示延べ時間

表3-2 指針実施後の隔離・身体拘束の実施状況（施設別）

施設	A	B	C	D	E	F	G	H	I	計						
調査参加病床数	749	371	180	365	50	377	230	36	1258	3625						
入院延べ人数	10090	5041	2449	5025	641	5025	3122	371	14864	46628						
入院実人数	746	387	181	364	70	451	225	47	1197	3668						
隔離実人数	20	2.7%	12	6.6%	10	14.3%	3	1.3%	8	17.0%	74	6.2%	181	4.9%		
隔離実施件数	31	21	74	24	11	22	4	8	112	307						
隔離延べ日数	60	0.6%	97	4.0%	88	13.7%	24	0.8%	42	11.3%	872	5.9%	1711	3.7%		
隔離指示延べ時間	796	0.3%	373	0.6%	2088	13.6%	537	0.7%	964	10.8%	19536	5.5%	35807	3.2%		
開放観察患者実人数	2	10.0%	3	25.0%	9	90.0%	3	100.0%	3	37.5%	55	74.3%	128	70.7%		
開放観察延べ件数	4	289	27	282	260	341	74	37	1230	2544						
開放観察延べ日数	4	6.7%	3	3.1%	84	95.5%	22	91.7%	31	73.8%	555	63.6%	1143	66.8%		
開放観察延べ時間	0	0.0%	0	0.0%	213	10.2%	1743	33.9%	29	5.4%	384	39.8%	2013	10.3%	5715	16.0%
拘束実人数	47	6.3%	6	3.3%	6	8.6%	0	0.0%	23	48.9%	37	3.1%	151	4.1%		
拘束実施件数	83	8	7	0	8	28	0	23	51	208						
拘束延日数	295	2.9%	56	2.3%	13	2.0%	0	0.0%	82	22.1%	446	3.0%	1168	2.5%		
拘束指示延べ時間	4735	2.0%	1022	1.7%	261	1.7%	0	0.0%	1840	20.7%	7448	2.1%	21161	1.9%		
部分中断実人数	29	61.7%	4	57.1%	5	83.3%	0	0	6	26.1%	22	59.5%	96	63.6%		
部分中断延べ件数	492	44	93	0	25	486	0	134	1423	2697						
部分中断延べ日数	173	58.6%	33	58.9%	10	76.9%	0	58	70.7%	239	53.6%	748	64.0%			
部分中断延べ時間	2085	44.0%	525	51.4%	69	26.4%	0	500	27.2%	1549	20.8%	7007	33.1%			
拘束一部解除延べ日数	2	0.7%	1	2.0%	1	7.7%	0	1	1.2%	5	1.1%	60	5.1%			
拘束一部解除延べ時間	4	0.1%	0	0.0%	11	4.2%	0	12	0.7%	28	0.4%	641.5	3.0%			

図 2 - 1 指針実施後の隔離・身体拘束の実施状況  
(男女別)

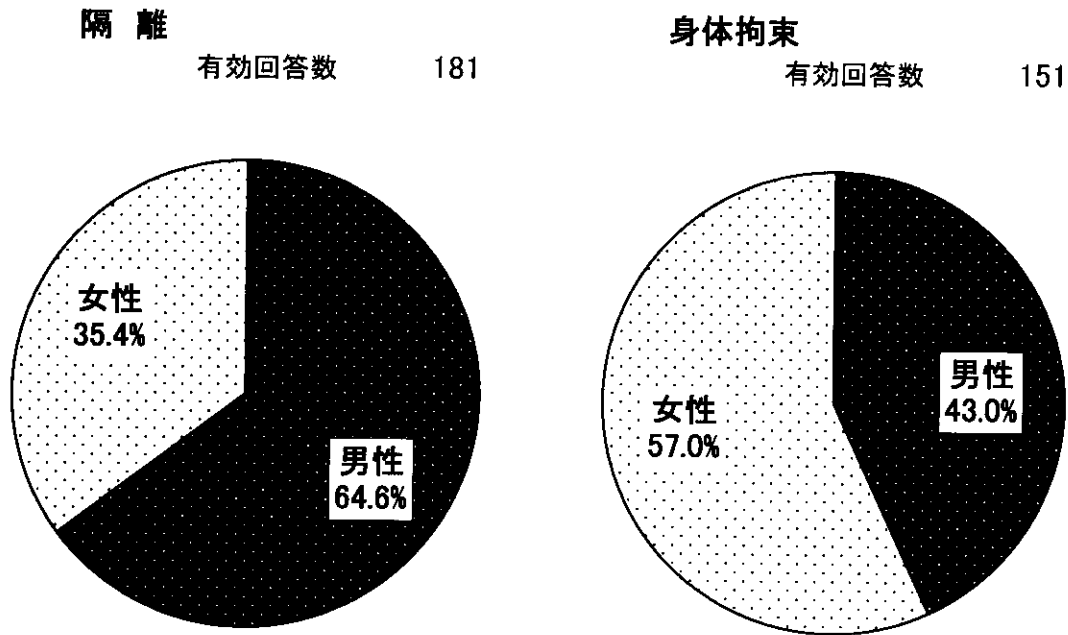


図 2 - 2 指針実施後の隔離・身体拘束の実施状況  
(年齢別)

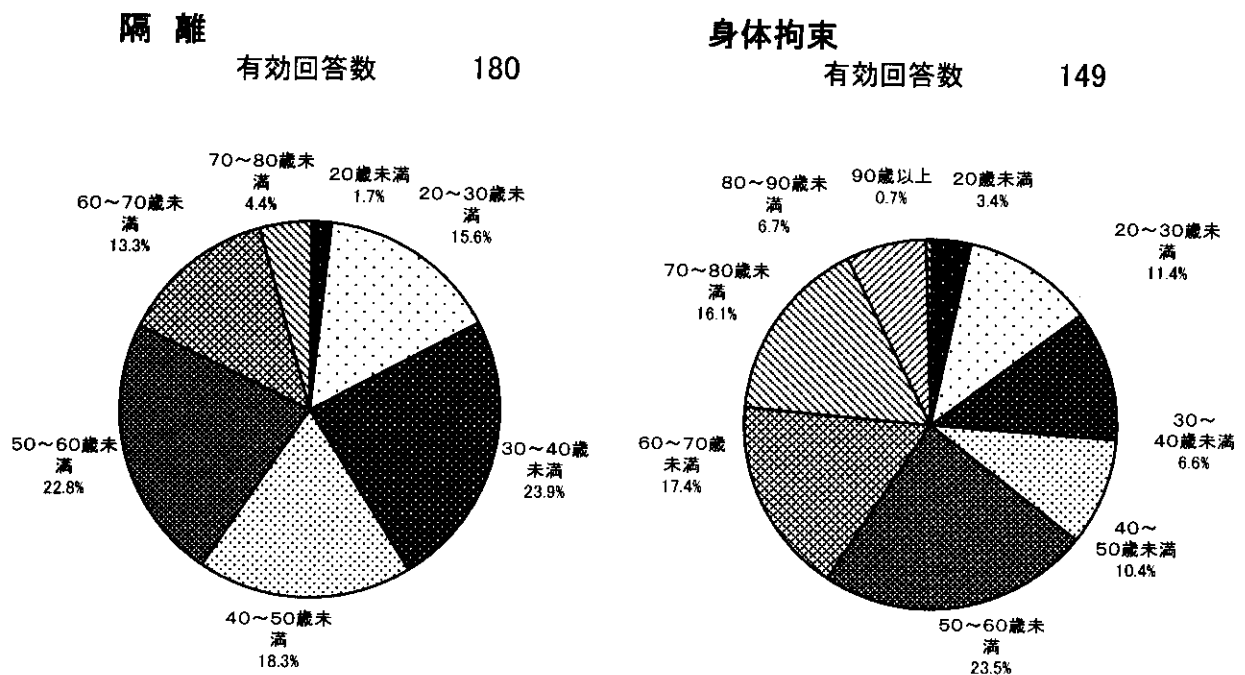


図 2 - 3 指針実施後の隔離・身体拘束の実施状況  
(身体拘束の部位)

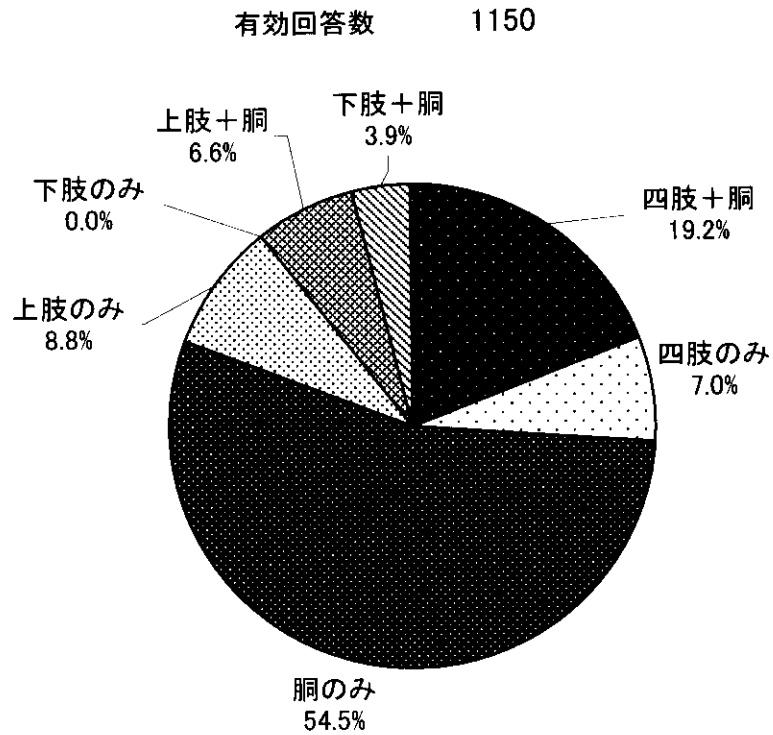


図 2 - 4 指針実施後の隔離・身体拘束の実施状況  
(マグネット式抑制帯の使用の有無)

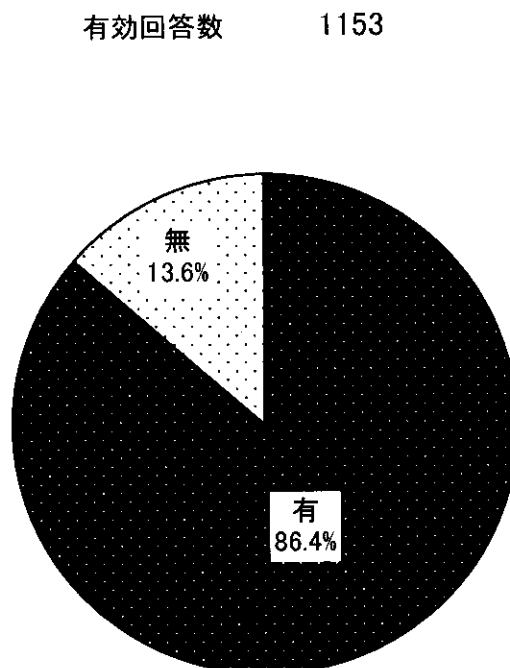


表 4 - 1 隔離身体拘束の継続が2週間を超えた場合の報告書

回収件数 903

実人数 244人

長期化した理由

2-1隔離の目的			
1	2-1-1刺激を遮断して静穏で保護的な環境を提供することにより症状を緩和すること	144	15.9%
2	2-1-2他害の危険を回避すること	116	12.8%
3	2-1-3自殺あるいは自傷の危険を回避すること	26	2.9%
4	2-1-4他の患者との人間関係が著しく損なわれないように保護すること	122	13.5%
5	2-1-5自傷他害に至るほど攻撃性は強くないが興奮性が顕著である患者を保護すること	63	7.0%
6	2-1-6身体合併症を有する患者の検査および治療を遂行すること	46	5.1%
2-2身体拘束の目的			
2-2-1以下に該当する場合の他害の危険を回避すること			
7	2-2-1-1) 突発した興奮や暴力的な行動が、脳器質性疾患に起因している可能性が否定できない場合	52	5.8%
8	2-2-1-2) 身体合併症を有する患者に身体への安全性を考慮して選択された薬物の種類あるいは量が鎮静に不十分な場合	43	4.8%
9	2-2-1-3) 患者の体格や興奮の程度を考慮して、隔離のみでは医療者が患者に接近できないため迅速かつ十分な医療行為を行うことが困難な場合	4	0.4%
2-2-2以下に該当する場合の自殺あるいは自傷の危険を回避すること			
10	2-2-2-1) 2-2-1-1) に該当する場合	28	3.1%
11	2-2-2-2) 2-2-1-2) に該当する場合	72	8.0%
12	2-2-2-3) 2-2-1-3) に該当する場合	28	3.1%
13	2-2-3 せん妄など種々の意識障害の状態にある患者の危険な行動を防止すること	71	7.9%
14	指針のどの項目にも該当しない	88	9.7%

表 4 - 2 疾病分類別

	隔離		身体拘束		計	
F0 (症状性を含む器質性精神障害)	11人	8.1%	8人	15.4%	19人	10.2%
F1 (精神作用物質による精神および行動の障害)	4人	3.0%	1人	1.9%	5人	2.7%
F2 (精神分裂病,分裂病型障害および妄想性障害)	82人	60.7%	34人	65.4%	116人	62.0%
F3 (気分[感情]障害)	19人	14.1%	5人	9.6%	24人	12.8%
F4 神経症障害,ストレス関連障害および身体表現性障害	1人	0.7%	0人	0.0%	1人	0.5%
F5 (生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群)	0人	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%
F6 (成人の人格および行動の障害)	1人	0.7%	0人	0.0%	1人	0.5%
F7 (精神遅滞)	11人	8.1%	1人	1.9%	12人	6.4%
F8 (心理的発達の障害)	1人	0.7%	1人	1.9%	2人	1.1%
F9 (小児期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害+特定不能の精神障害)	0人	0.0%	1人	1.9%	1人	0.5%
G4 (てんかん)	1人	0.7%	0人	0.0%	1人	0.5%
その他	4人	3.0%	1人	1.9%	5人	2.7%
計	135人		52人		187人	

図3-1 隔離身体拘束の継続が2週間を超えた場合の報告書  
(男女別)

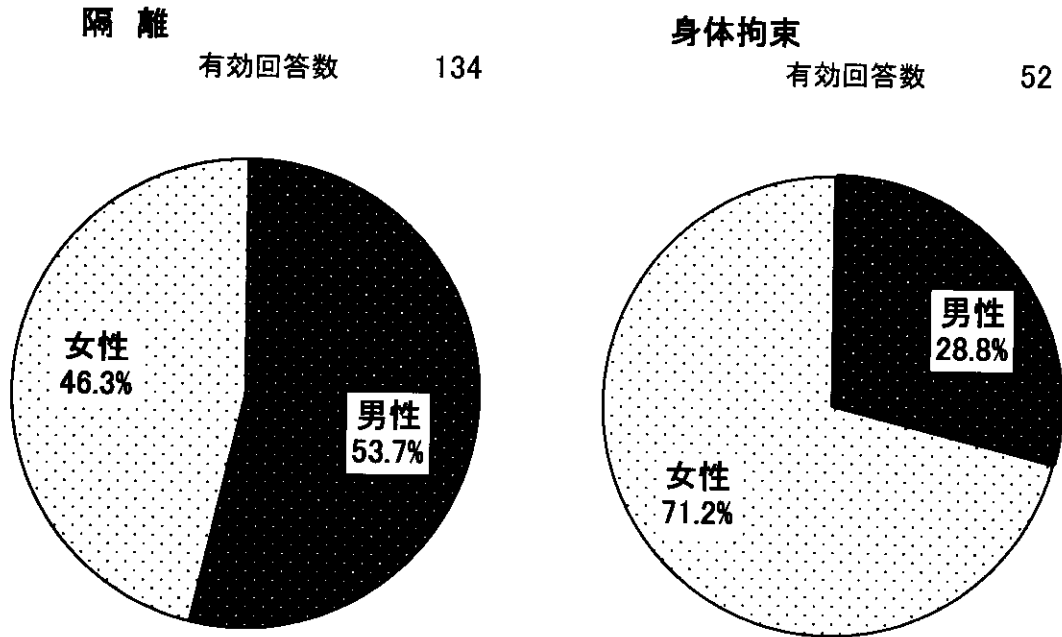


図3-2 隔離身体拘束の継続が2週間を超えた場合の報告書  
(年齢別)

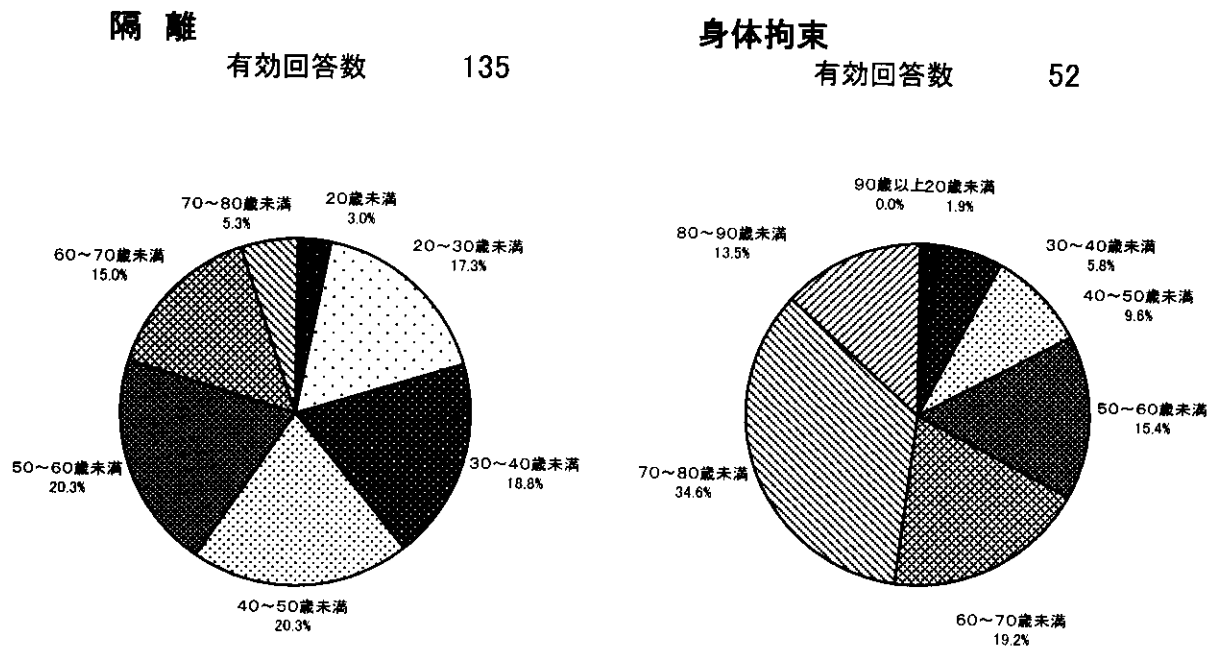




図 3 - 3 隔離身体拘束の継続が2週間を超えた場合の報告書  
(入院期間)

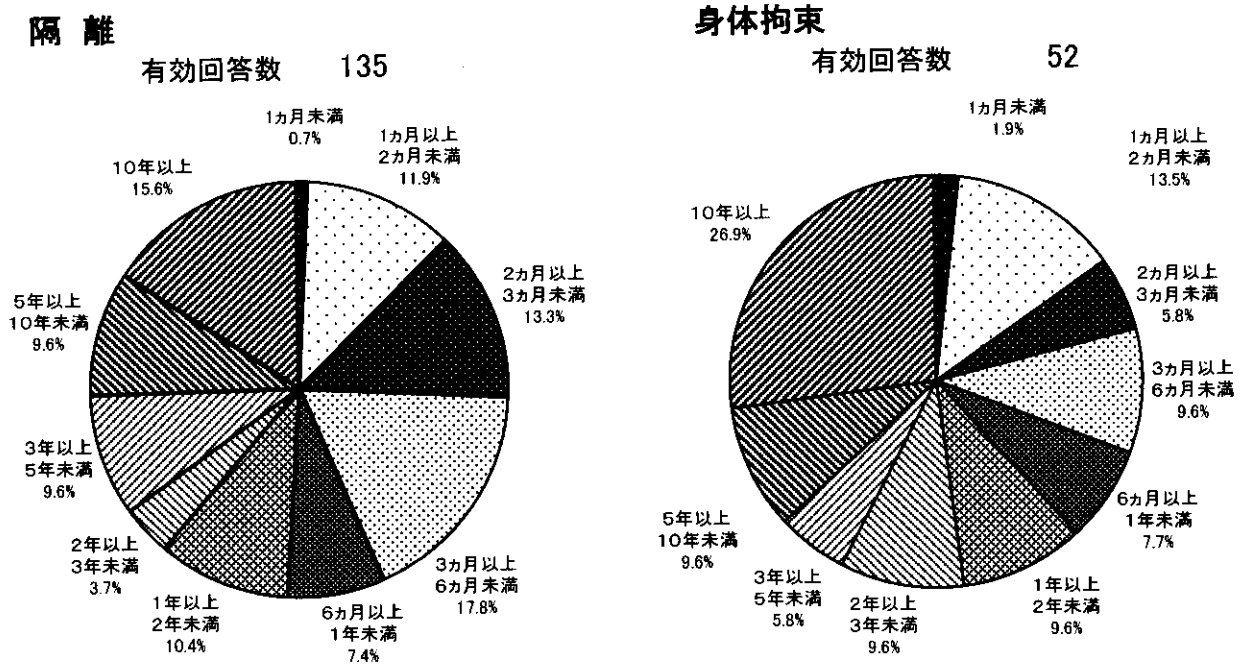


図 3 - 4 隔離身体拘束の継続が2週間を超えた場合の報告書  
(入院回数)

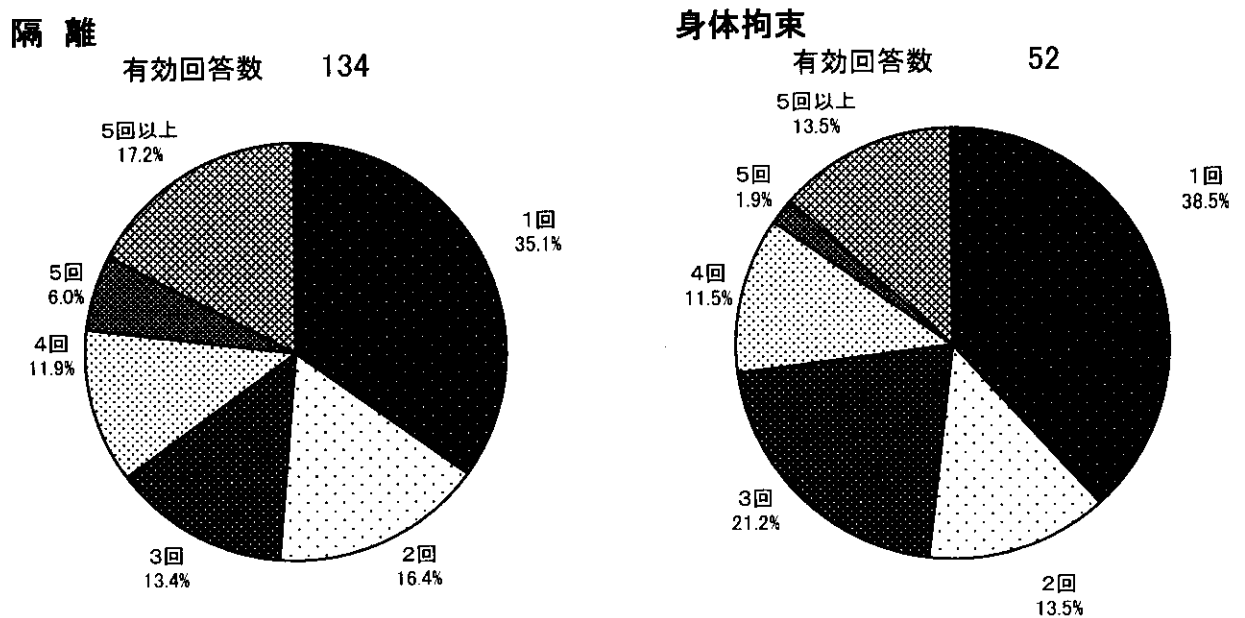
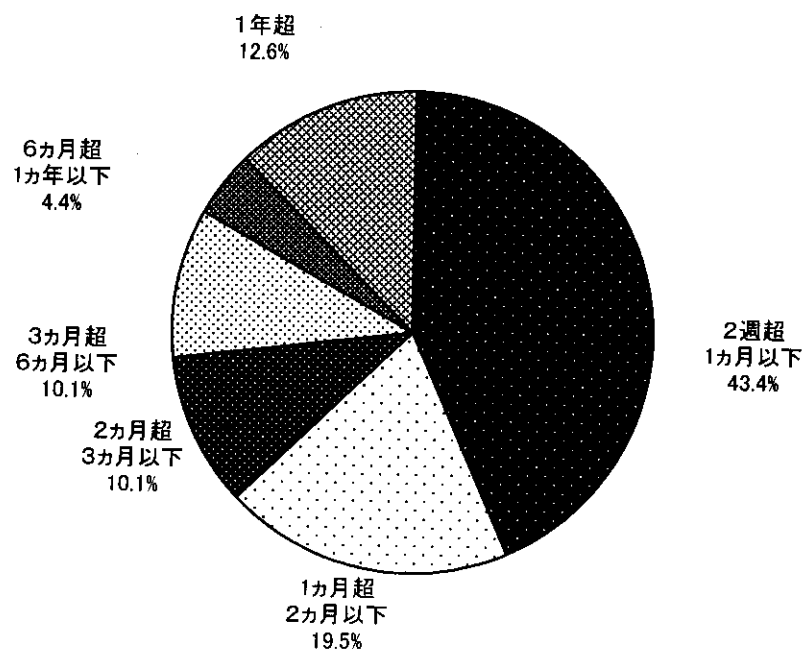


図 3 - 5 隔離身体拘束の継続が2週間を超えた場合の報告書  
(行動制限の継続期間)

隔離

有効回答数 159



身体拘束

有効回答数 62

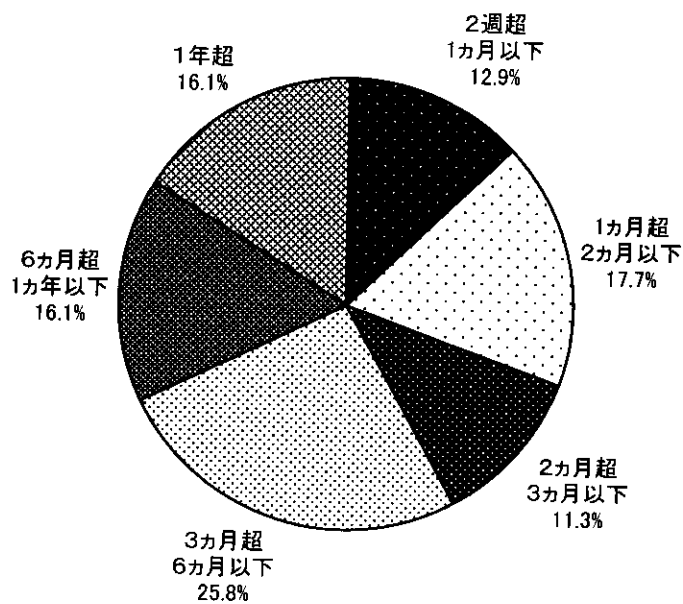


表5 委員会の実施状況

病院	委員数	外部審査委員受け入り	委員会実施回数	総取扱患者数	委員会合計時間(分)
A	4名	あり	8回	83名	420分
B	5名	あり	8回	113名	600分
C	5名	あり	9回	76名	250分
D	5名	あり	9回	58名	640分
E	5名	なし	4回	11名	230分
F	6名	あり	10回	214名	840分
G	5名	なし	11回	14名	245分
H	5名	あり	8回	37名	405分
I	12名	なし	8回	220名	390分
合計	52名	6病院受け入れ	75回	826名	4020分

図4-1 委員会1回あたりの時間

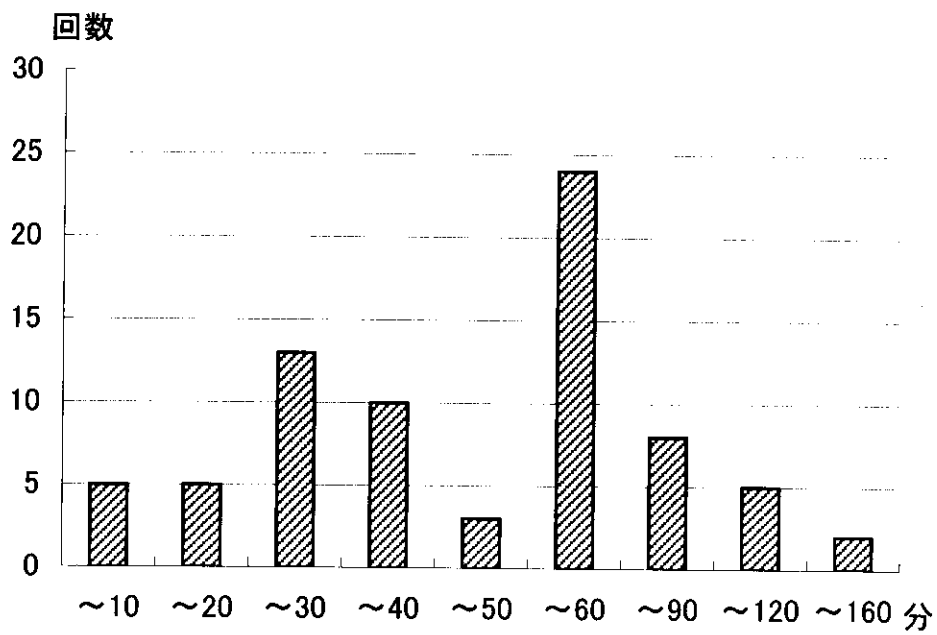
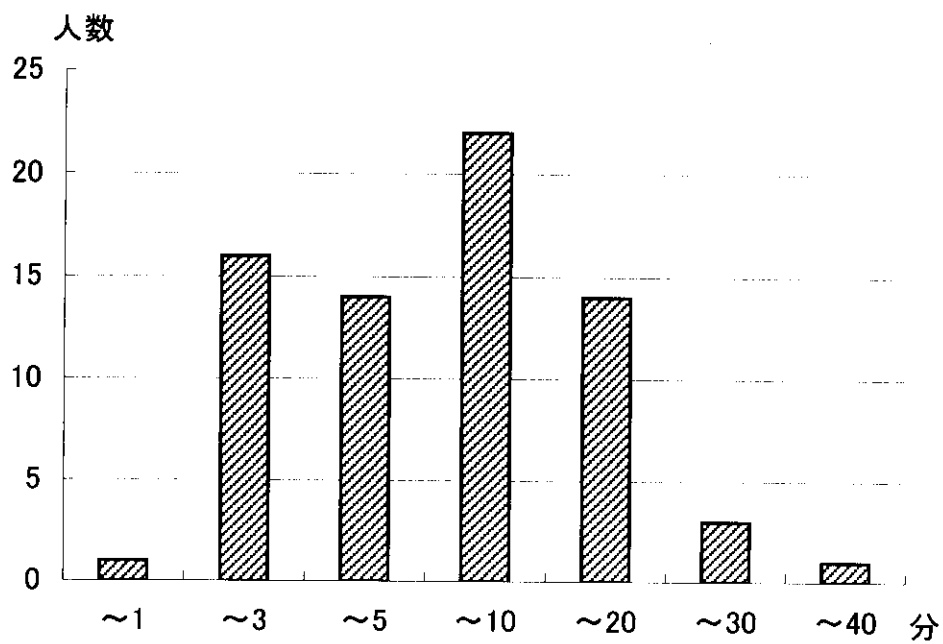


図4-2 各委員会での患者1人あたりの平均時間



## 隔離身体拘束の継続が2週間を超えた場合の報告書

図4-3 行動制限解除への努力がなされた  
有効回答数 901

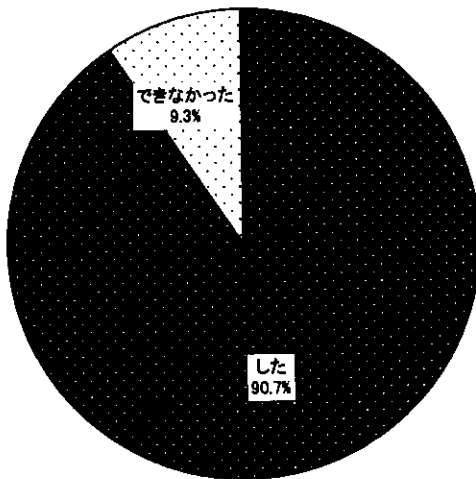


図4-4 今後隔離拘束解除への見通しはあるか  
有効回答数 896

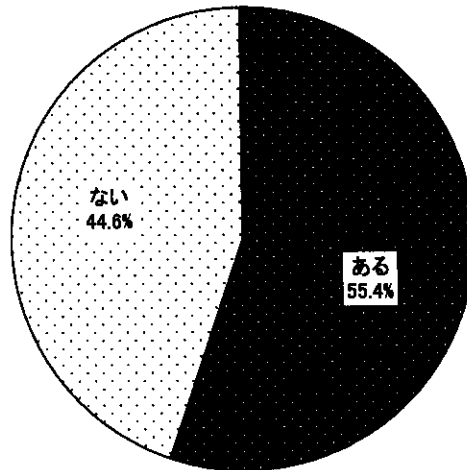
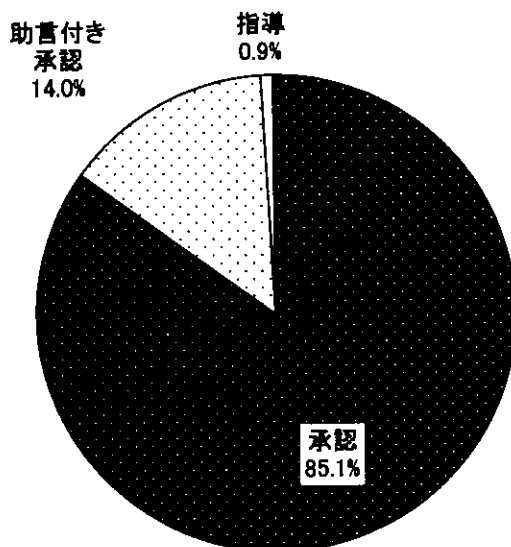
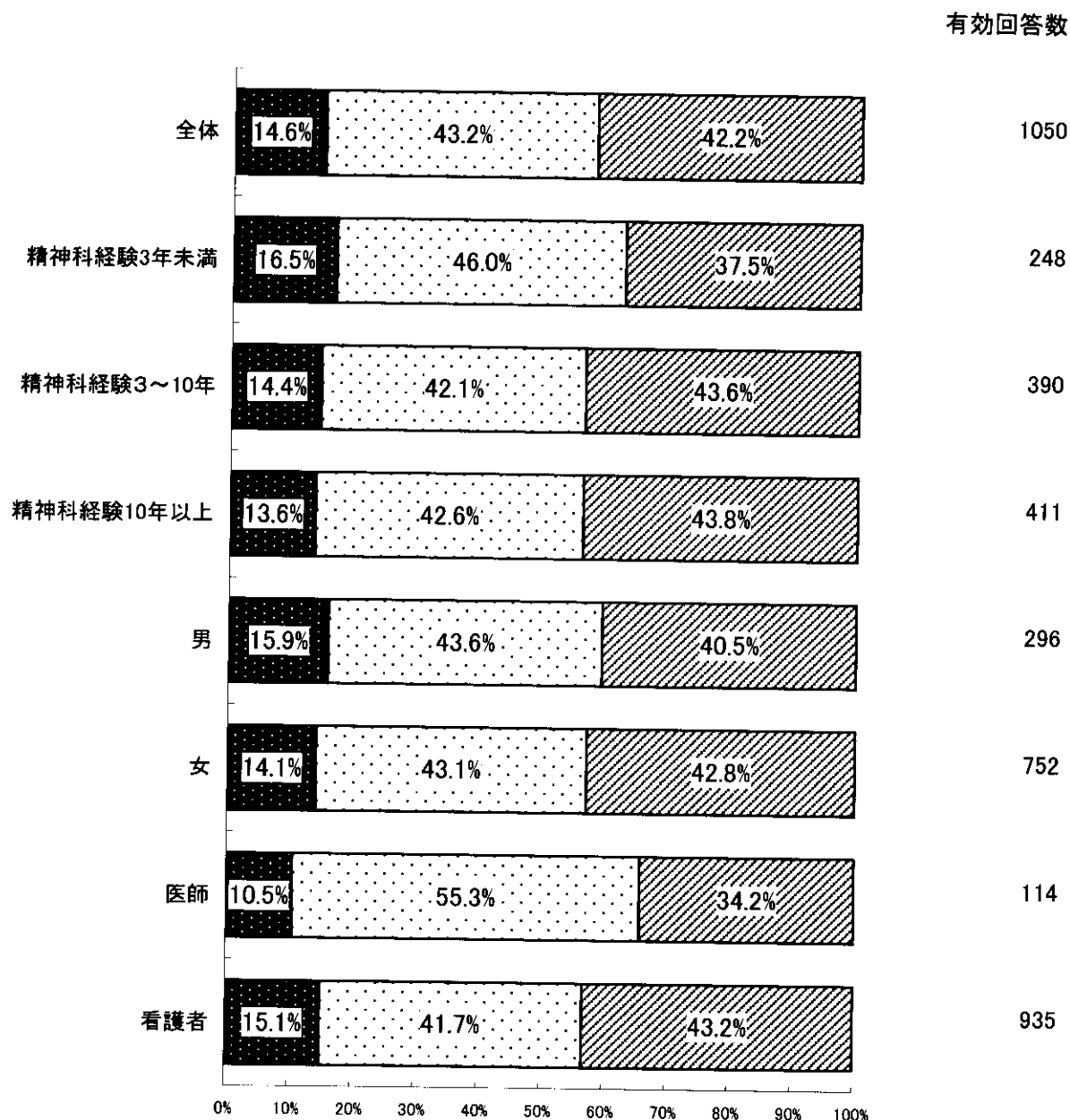


図4-5 行動制限審査委員会による回答書  
有効回答数 872



## 指針実施前の隔離・身体拘束実施に関する職員アンケート

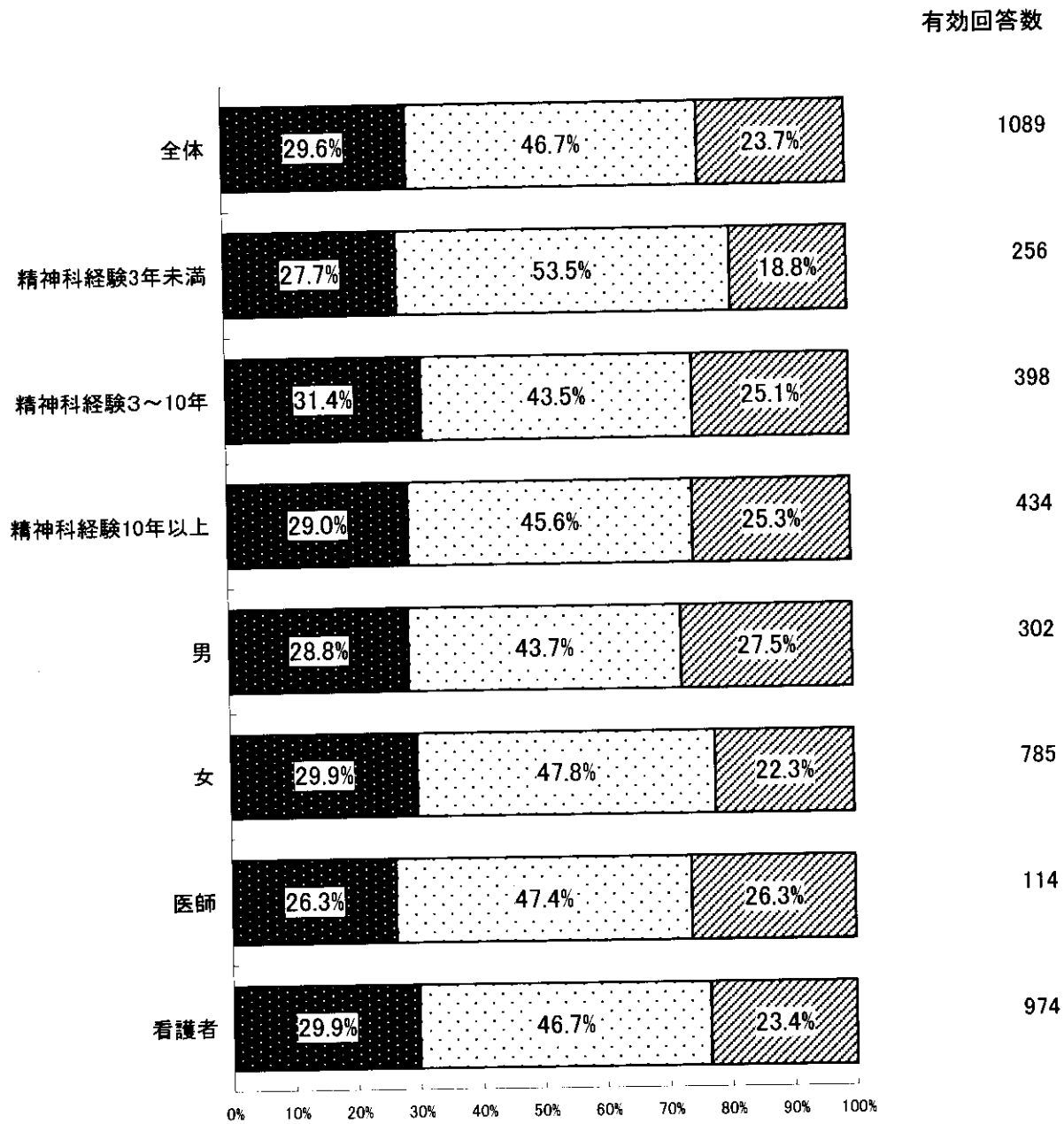
### 図5-1 隔離・身体拘束の現状について



- ①主治医と看護師との間で隔離・身体拘束について検討が十分に行われていないので、隔離・身体拘束の日数について最小化する努力がなされていないと思う。
- ②隔離・身体拘束の日数については現状で最小と考えられるが、開放観察あるいは身体拘束の部分的中断を試みる努力は十分にはしていないと思う。
- ③日頃から主治医と看護師との間で十分に話し合いがなされているため、今以上に隔離・身体拘束の日数減少あるいは開放観察・身体拘束の部分的中断の頻度増加といった行動制限の最小化を図ることは無理である。

## 指針実施前の隔離・身体拘束実施に関する職員アンケート

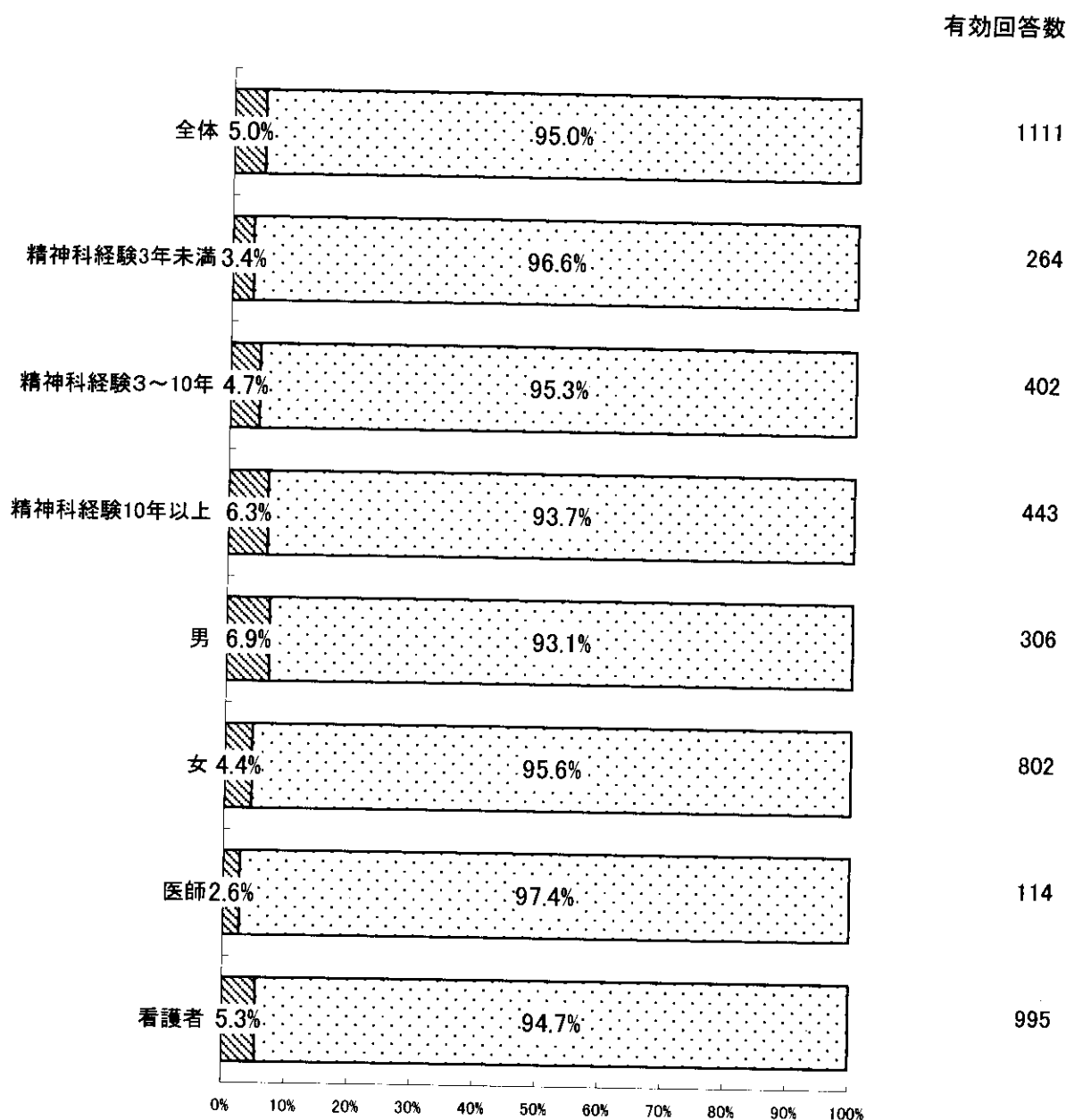
### 図5-2 病院内審査機関を設置して実施した後の変化の予想について



- ①主治医と看護師との間で隔離・身体拘束について検討が十分になされるため、現状よりも隔離・身体拘束の日数を減らせると思う。
- ②努力しても隔離・身体拘束の日数は減らせないが、開放観察あるいは身体拘束の部分的中断の頻度は増やせると思う。
- ③現状でも主治医と看護師との間で十分に話し合いがなされて最小の行動制限が実現されているため、今回の実施によって隔離・身体拘束の日数減少あるいは開放観察・身体拘束の部分的中断の頻度増加といった行動制限最小化の効果は期待できないと思う。

指針実施前の隔離・身体拘束実施に関する職員アンケート

図 5 - 3 隔離・身体拘束に対する医療者の意識について



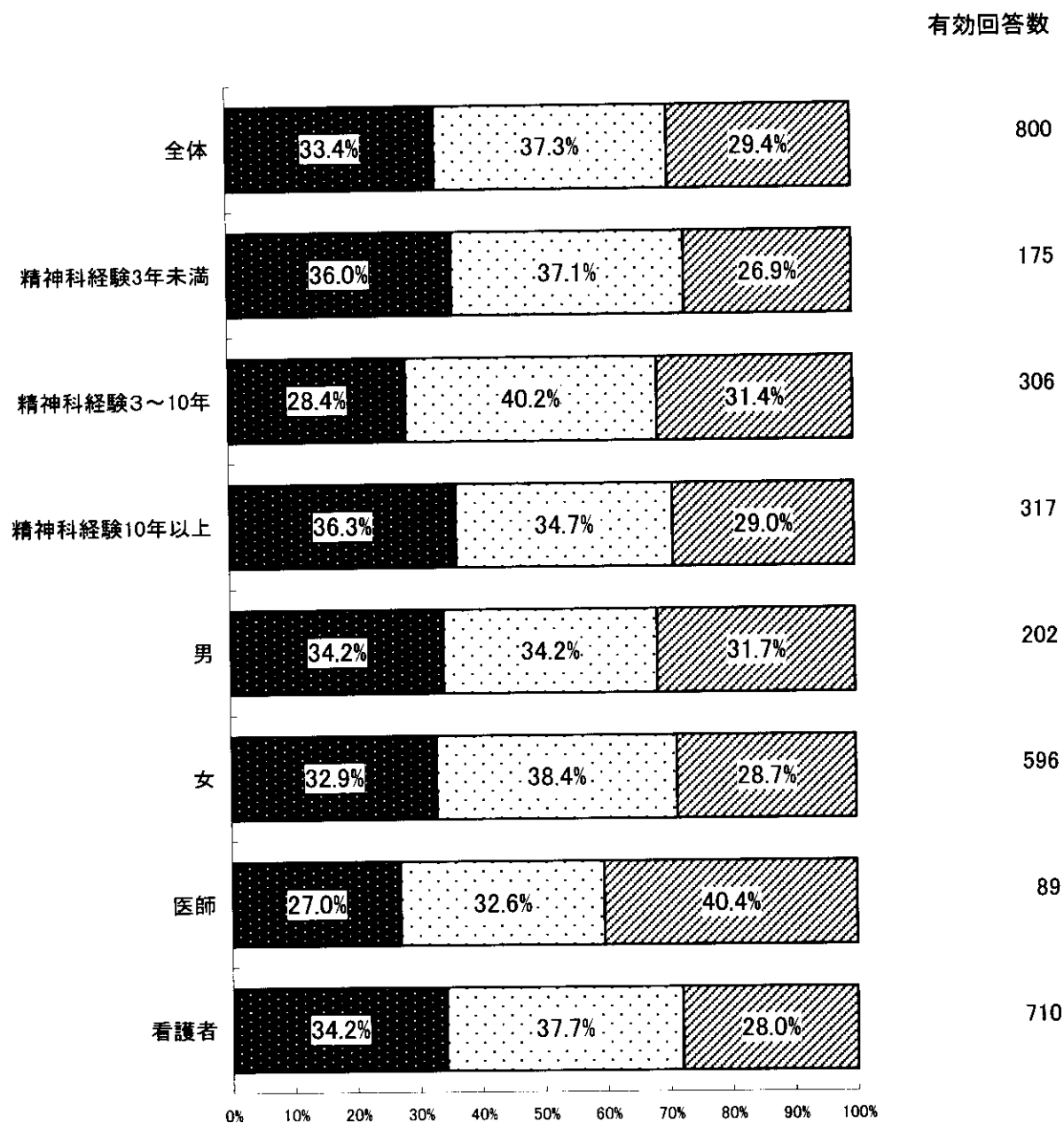
① 隔離・身体拘束の最小化を意識することは、臨床現場には意義があまりないと思う。

② 隔離・身体拘束の最小化を意識することは、臨床現場に意義があると思う。



## 指針実施後の隔離・身体拘束実施に関する職員アンケート

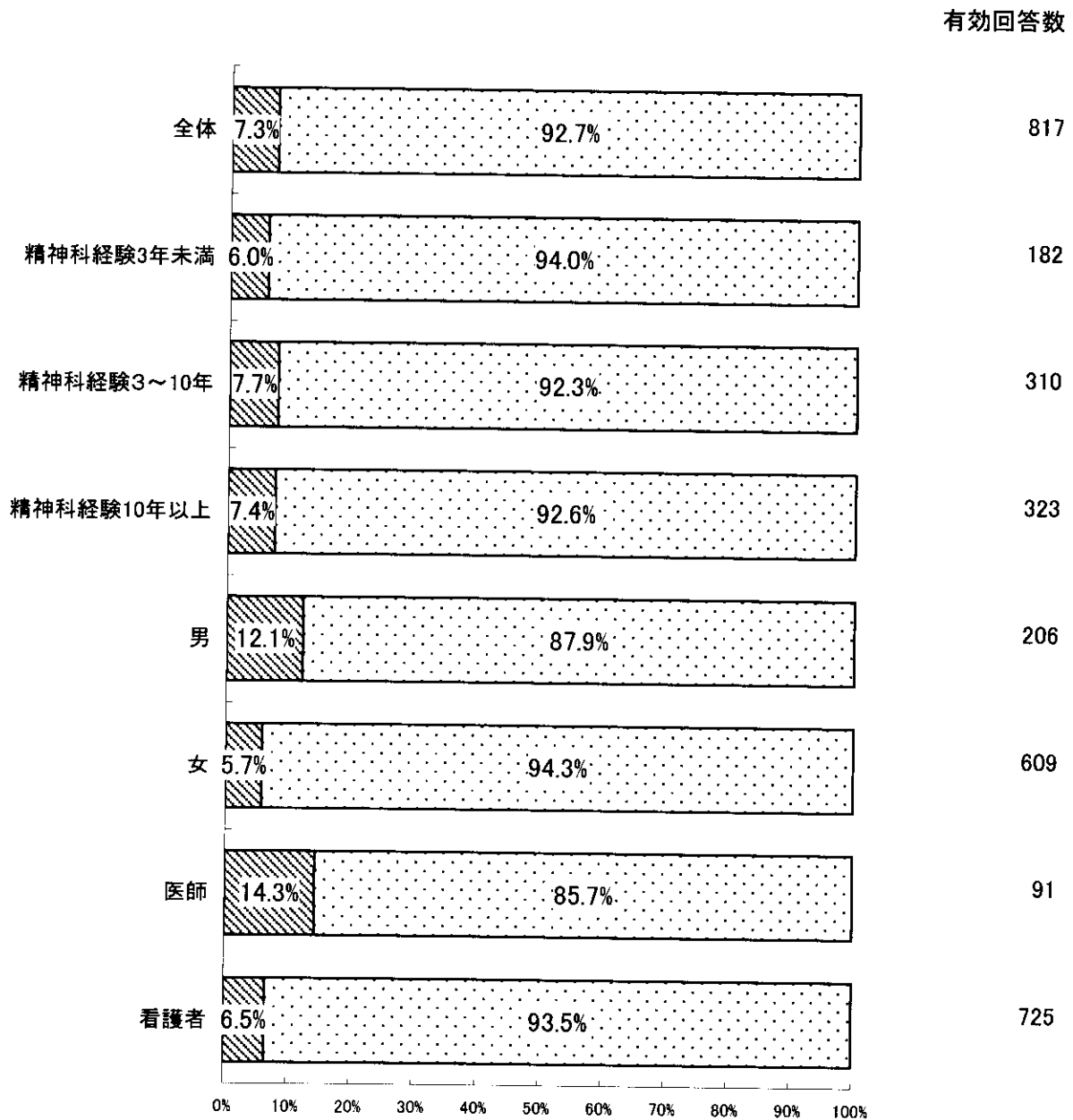
図6-1 病院内審査機関を設置して実施した後の変化について



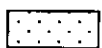
- ①主治医と看護師との間で隔離・身体拘束について検討が十分にされたため、試行前より隔離・身体拘束の日数を減らせたと思う。
- ②努力しても隔離・身体拘束の日数は減らせなかったが、開放観察あるいは身体拘束の部分的中断の頻度は増やせたと思う。
- ③研究実施前から主治医と看護師との間で十分に話し合いがなされ最小の行動制限が実現されていたため、実施前後で隔離・身体拘束の日数あるいは開放観察・身体拘束の部分的中断の頻度は変化なかったと思う。

指針実施後の隔離・身体拘束実施に関する職員アンケート

図6-2 隔離・身体拘束に対する医療者の意識について



① 隔離・身体拘束の最小化を意識することは、臨床現場には意義があまりなかったと思う。



② 隔離・身体拘束の最小化を意識することは、臨床現場でそれらを実施する際に必要性・妥当性を検討して開放観察や身体拘束の部分的中断ができないか意識することにつながったため、意義があったと思う。

図 7 - 1 隔離および身体拘束に関する患者アンケート

a. 全般的に今回の入院治療は納得のいくことでしたか。

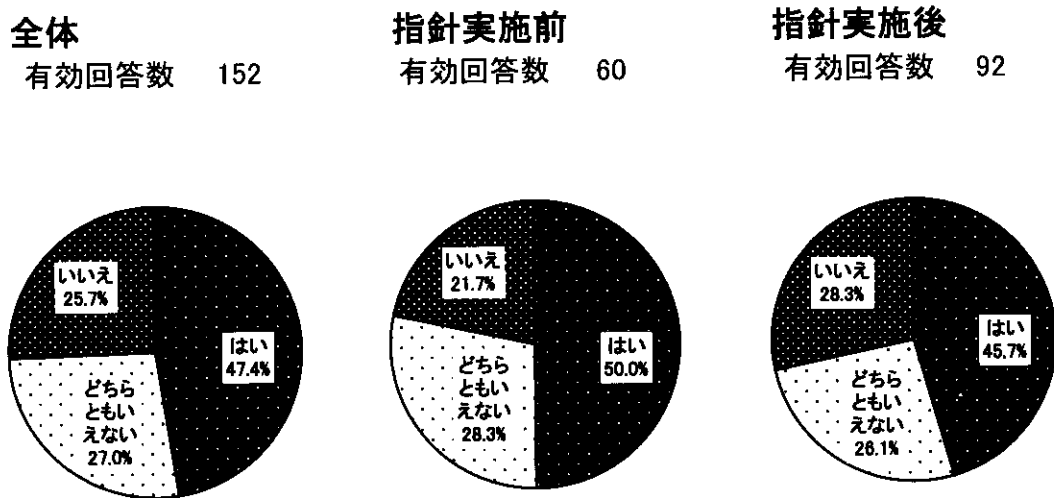


図 7 - 2 隔離および身体拘束に関する患者アンケート

b. あなたが受けた隔離あるいは身体拘束は治療上必要であったわけですが、当時の自分の状態を振り返ってみると、その行動制限はやむをえなかったと理解できますか。

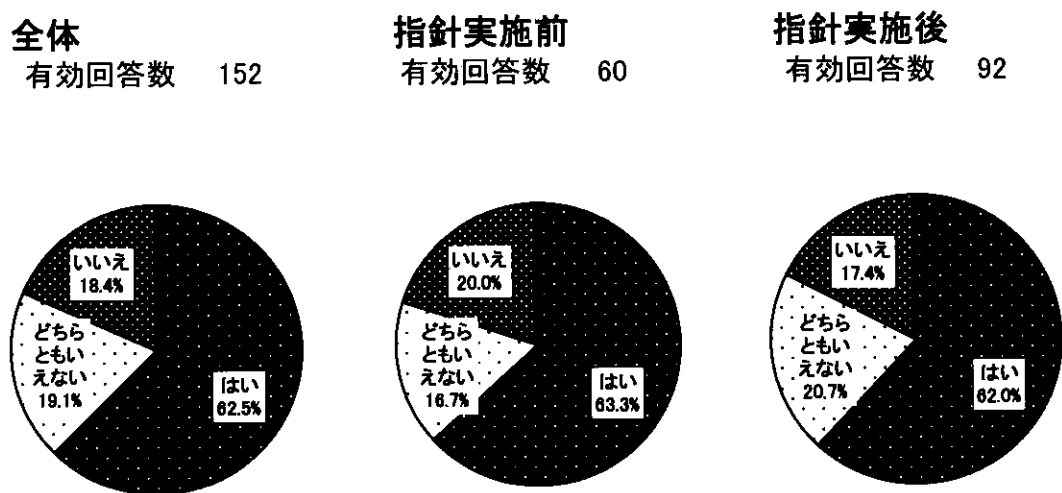


図7-3 隔離および身体拘束に関する患者アンケート

c. 隔離を受けた患者さんにお尋ねします。隔離を開始された当初は1日中施錠されることが多いですが、日を追って午前中のみ施錠しない、あるいは日中のみ施錠しないといった具合に段階的に隔離の程度が緩和されることを開放観察といいます。あなたの場合、この開放観察が頻繁に行われて医療者のきめ細かい配慮が感じられましたか。

全体 有効回答数 135  
 指針実施前 有効回答数 49  
 指針実施後 有効回答数 86

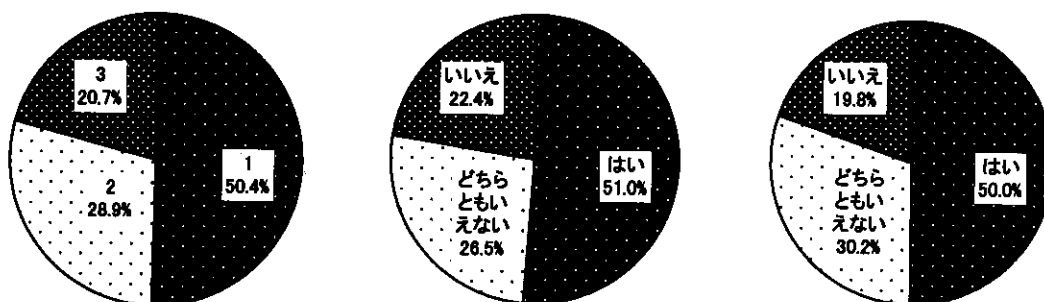


図7-4 隔離および身体拘束に関する患者アンケート

d. 身体拘束を受けた患者さんにお尋ねします。身体拘束を開始された当初は1日中拘束されることが多いですが、日を追って片足のみ拘束中断、あるいは日中のみ拘束中断といった具合に段階的に身体拘束の程度が緩和されることを身体拘束の部分的中断といいます。あなたの場合、この身体拘束の部分的中断が頻繁に行われて医療者のきめ細かい配慮が感じられましたか。

全体 有効回答数 75  
 指針実施前 有効回答数 30  
 指針実施後 有効回答数 45

